

No.15:地元山葵(わさび)の新方式栽培と栽培ディスプレイ販売の事業化支援

【企業概要】

設備設計のノウハウと精密位置決め技術による、高精度なモーションコントロール応用装置・機器の研究・開発・販売する一般機械メーカー。
新事業として地元山葵の栽培と栽培ディスプレイの生産・販売に取り組んでいる。
資本金1,000万円、従業員23名。

【支援開始の経緯、事業状況と経営課題】

- 1.当拠点は「市工業支援センター」にサテライト機能をおき各支援機関と地域の横断的な情報交流・連携の要となっている。また、「広域コーディネーター会議」に参画して広範なエリアカバーと多角的視点からのアプローチを進めている。
- 2.この連携から、一般機械メーカーである同社が、社長が兼業で栽培している山葵の事業化を希望しているとの情報を得た。
- 3.社長の、荒廃する山葵畑の活性化、また、新事業への強い意欲に共感し、「地域資源活用事業」として支援するに至った。
- 4.企業経営としても、一般機械の市場は厳しく、有力な経営資源を活かして農業分野を交えた新たな事業分野の開拓が事業課題である。



【支援の経過】

平成21年3月	山葵の事業化に向け、支援開始
平成21年6月	地域資源活用事業として地域活性化支援事務局と連携
平成21年8月	新栽培方式のテスト開始、栽培ディスプレイの試作
平成21年10月	栽培ディスプレイによるモニター販売(店舗先、そば祭会場)
平成22年1月	地域資源活用計画の申請予定
平成24年	販売開始予定

【経営課題へのアプローチと支援手法】

- 1.社長は山葵栽培の豊富な経験と卓越した知識・技術があり、これに機械メーカーとしての経営資源の有効投入と農業分野を交えた新たな事業分野の開拓に取り入れる。
- 2.新栽培方式によるブランド化とディスプレイによる新たな販売方式・ルートの確立には広範囲な連携支援体制が必要である。
- 3.地区地域力連携拠点センターが核となり、応援コーディネーターが地域資源活用事業へのロードマップによる連携支援体制を構築して経営力の向上に導く。
 - ①新栽培方式の技術確立と成分分析・・・大学の健康栄養学科
 - ②評価・テストの支援・・・テクノ財団、商工会議所技術支援コーディネーター
 - ③ブランド化デザイン・・・県地域資源製品開発支援センター
 - ④栽培ディスプレイによる新販売方式・・・地域活性化支援事務局
 - ⑤栽培ディスプレイによるモニター販売・・・協会社各店舗、市イベント

【他の支援者に伝えたい支援のノウハウ】

地域力連携拠点の組織運営マネジメントが連携体制を構築するための基盤。各支援機関のコーディネーター、アドバイザー、相談員、担当者がリアルタイムの連携と情報共有できる場がマネジメントされている。

- 1.企業へワンストップサービスはスピーディーに。その場で出来ない場合でも24H以内に第一報の情報は提供する。
- 2.各支援機関とは相互支援を基本とし、キーマンとのホットラインを確立する。
- 3.セミナー・シンポジウム等元気のある集まりには参加し、常に連携の輪を広げる。

【支援結果と改善効果】

- 1.実験計画法に基く栽培条件因子の寄与率の数値化による解析
- 2.栽培ディスプレイのモニター販売による市場の把握
- 3.地域ブランド品の掘り起こしと知名度の向上
- 4.新栽培による労働力の軽減と地域活性化
- 5.事業化計画 売上計画 30百万円(平成25年度)

【事業者の声】

- 1.新栽培方式を地域活性化のために役立てたい。荒廃する山葵畑の再生を計りたい。
- 2.応援コーディネーターは常に身近、何時でも相談・支援が得られ安心できる。